くみあいNEWS

第１５３２９号
2023年9月29日(金)
発行責任者
日本製鉄和歌山労働組合
組織教宣部
WAKAYAMA WORKERS' UNION

組合ＨＰ　組合 LINE

代表内線番号　和歌山地区(本部)(54)－3590
堺地区　652990／海南地区(54)－5555

日本製鉄労連「第14回定期大会」報告

去る９月６日(水)、日本製鉄労連「第 14 回定期大会」がホテルベルクラシック東京で開催され、和歌山労組からは９名が代議員として参加しました。

大会議案である第１号議案「第７期運動方針（案)」に対し、19 単組から原案賛成の立場で補強意見が出され、和歌山労組からは太田代議員が「安全な職場環境の確立」、「ＡＰ 24・25 春季取り組みへの対応」、「産業政策・政策制度、生活諸課題の改善」の３点について補強意見を述べました。第１号議案をはじめ、第２号議案「2024 年度諸会計予算（案)」、第３号議案「役員選挙に関する件（案)」、第４号議案「第 27 回参議院議員選挙比例代表候補予定者の推薦について（案)」、第５号議案「役員推せん委員会の設置と構成について（案)」、第６号議案「器具備品の処分について（案)」、第７号議案「外部団体派遣者の推薦に関する件（案)」の全てが、満場一致で可決･決定されました。なお、今般の役員選挙に伴い、日本製鉄労連の会長は青雲（尼崎労組）氏が退任され、幸野（八幡労組）氏が就任されました。

青雲会長挨拶(要旨)



▲青雲会長

日本製鉄においては、今月末に呉地区の熱延・酸洗ライン、今年度上期末から年度末にかけて阪神地区（大阪）の全ライン、来年度に鹿島地区の鉄源１系列、厚板ライン、大形ライン、君津地区の No.1 溶融亜鉛めっきライン、和歌山地区の第４コークス炉、薄板ライン、阪神地区（堺）の No.1 溶融亜鉛めっきラインの設備休止が予定されている。当該単組におかれては、大変なご苦労をお掛けすることになるが、設備休止による離職者を最小限に抑えるべく、日常的な対話を通じて個々人の不安解消に努めることや職場の実態を踏まえた必要な対応を図ること等、連合会と単組がしっかりと連携を図りながら、人員措置への対応に最大限の努力をしなければならないことから、対象者一人ひとりに対する慎重かつ丁寧な対応をお願いする。

次に離職防止については、人材獲得競争が激化しているなかで、優秀な人材の確保が年々難しくなっていることや依然として離職者が多いこと等を踏まえると、近い将来、人材不足が要因で生産活動をはじめ、様々な面において支障をきたす懸念がある。このような環境を踏まえ、会社は、経営の最重要課題の一つとして、様々な人事施策を推進していくと公表しており、認知度向上に向けた広報活動や退職者を採用するアルムナイ採用、初任給の引き上げ等、できるものから順次、対応策を講じていくとしている。

AP24 春季取り組みは、「魅力ある労働条件づくり」と「産業・企業の競争力強化」の好循環の創造を基本に、基幹労連の 2 年サイクル運動における総合改善年度と個別改善年度を堅持したうえで、時々の環境や産業・企業の状況などを総合的に考慮し、最も効果的と判断し得る取り組みとなるよう、賃金改善の単年要求も含めた柔軟な対応ができるよう検討していく。また、今年の春季交渉において、他産別と差がついた賃金格差を埋めることはもちろん、賃金以外の項目についても優秀な人材の確保・定着を目的に、前向きに検討していくべきであると考えており、鉄鋼業を魅力ある産業であることを内外に示す取り組みにしていかなければならない。今次 AP に対する組合員の大きな期待に応えるためにも、これまで出された職場意見を踏まえるとともに、各種委員会や討論集会での組織議論を積み上げ、方針を策定していくことから各単組の積極的な参画をお願いする。

2025 年 7 月施行の第 27 回参議院議員選挙の対応については、連合会として比例代表候補に JAMの組織内候補者「郡山りょう」氏を推薦することにした。

本日以降、連合会と単組が一丸となって政策実現活動を進めていくこととなる。仮に今回推薦する「郡山りょう」氏を落選させた場合、5 年後の「村田きょうこ」の選挙に大きな影響が出るものと考えておかなければならず、何としても「郡山りょう」氏を国会に送りこまなければならない。前回選挙の良かった点、悪かった点を踏まえ、さらなる組織力強化に向けた取り組みをお願いする。

最後に連合会は、労働組合の究極の目的である組合員とその家族の幸せづくりを目指して独自の労働条件ビジョンを策定した。その理念は、誰もが会社生活や私生活において、より活き活きと輝き・彩あるものにし「日鉄に勤めていて良かった」と実感できるものにすることであり、この先、我々がめざすべき方向性を示したものである。今後は、各単組と連携を図りながら、支部役員、組合員への理解活動をはじめ、労働政策ビジョンで掲げた目標の実現に向け粘り強い取り組みを推進していく。



▲連合会　がんばろう三唱

日本製鉄労連第7期運動方針（案）に対する和歌山労組の補強意見


▲太田執行委員

ご安全に！和歌山労組代議員の太田です。

連合会第７期運動方針（案）に対し、原案賛成の立場を明確にした上で、３点について補強意見を申し述べる。

まず「安全な職場環境の確立」についてである。

和歌山労組は、最優先課題とする「安全で健康な職場づくり」に向けて、労使・直協一丸となった取り組みはもとより、新たに啓発グッズを作成し配布するなど、積極的に日々の安全活動に取り組んできたところである。しかしながら、本年においては、不休災害や軽処置災害の発生が多発したことに加え、２件の休業災害を発生させるなど、安全な和歌山は過去のものとなり、今や危機的な状況にあると受け止めている。

安全の確保は、組合員の知識・経験に加え、個々人の意識・感性に頼るところもあり、和歌山労組としては、支部との連携のもと今一度「安全最優先」の浸透と安全に強い人づくりをめざし、呼びかけや啓発活動を愚直に継続することに加え、安全意識の向上に繋がる研修会等を開催し、安全に強い和歌山を取り戻すべく取り組んでいく所存である。連合会におかれては、誰もが安全で健康に働ける職場環境づくりに向けて「ヒト・モノ・カネ」の確保、いわゆる経営資源の投入が引き続き実行されるよう取り組みをお願いする。

次に「AP 24・25 春季取り組みへの対応」についてである。

AP 22･23 春季取り組みにおいては、2022 年度 3,000 円、2023 年度 2,000 円と、複数年での交渉を始めた 1998 年以降で最高額の回答を得たところであるが、2023 年においては大企業の賃上げ率が 30 年ぶりの高水準となったことや、最低賃金の引き上げ額が過去最高となったことなどを受けて、今次ＡＰに対し組合員は大きな期待を抱いている。また、人口減少が進む中、優秀な人材の確保・定着の観点から、魅力ある賃金は必要最低限の条件であり、「総合力世界№1 の鉄鋼メーカー」にふさわしい賃金水準を追求し、AP 24・25 春季取り組みにおいては、引き続き強いリーダーシップの発揮をお願いする。

次に、「産業政策・政策制度、生活諸課題の改善」についてである。

第 26 回参議院議員選挙においては、我々の代表である「村田きょうこ」氏の議員バッチを必ず勝ち取るという強い決意のもと組織の総力を挙げて取り組みを進めてきた。

みんなの力でようやく誕生した村田きょうこ参議院議員は、国政の場において我々の代弁者として大いに存在感を発揮しており、組合員も活躍を見守っているところである。

喫緊の最重要課題である鉄鋼業のカーボンニュートラルの実現に向けて、村田きょうこ参議院議員の活躍に大いに期待するところであるが、脱炭素化には他業種以上に困難な革新的技術の開発が必要不可欠であり、国家プロジェクトとするためには、我々に賛同する国会議員が更に必要である。かかる認識のもと第 27 回参議院議員選挙においては、ＪＡＭ出身で基幹労連の推薦候補予定者である「郡山りょう」氏が立候補を予定しており、和歌山労組としても、前回の参議院議員選挙と同様に最大限の力で取り組みを進めていく所存である。連合会におかれては強いリーダーシップのもと、積極且つ前広な情報共有をお願いするとともに、各単組が一体となって将来にわたる組合員の雇用と生活の安心・安定をめざし共に頑張って参りましょう。

最後に、和歌山労組としては、日本のリーディングユニオンである日本製鉄労連の構成単組としての自覚と責任のもと、単組における組織力量の強化はもとより、連合会運動の着実な実践に向けて一丸となって取り組んでいく決意であることを申し述べ、第７期運動方針（案）に対する補強意見とする。

基幹労連「第21回定期大会」報告


▲神田中央執行委員長

去る９月７日(木)から９日(金)にかけて、基幹労連第 21 回定期大会が開催されました。審議事項第１号議案「第 12 期運動方針に関する件」、第２号議案「第 27 回参議院議員選挙対策に関する件」、第３号議案「規程の一部改正に関する件」、第４号議案「第 12 期財政方針に関する件」、第５号議案「各種委員会の設置に関する件」、第６号議案「第 12 期役員選出に関する件」の全てが、絶対多数で可決・決定されました。第６号議案において日本製鉄和歌山労働組合の特別執行委員である黒島巌氏が基幹労連事務局次長（政策推進局長）に就任されました。また、委員長については神田氏（日本製鉄労連）が退任され、津村氏（三菱重工グループ労連）が就任されました。

本大会の中で神田委員長より挨拶が述べられましたので紹介します。

【神田中央執行委員長挨拶要旨】

わが国では、旧来から続く資源・エネルギー問題を抱える中で、DX、GXへの対応など、一産業・企業の枠組みを超えた新たな課題も発現してきた。

とりわけ、脱炭素社会をめざすカーボンニュートラルへの挑戦は、研究・実装の資金や人財等、抱える課題は膨大であり、一産業・企業の枠組みを超えた国家的課題である。

加えて、わが国の構造的課題といわれて久しい、超少子高齢社会における労働人口の減少は、ものづくり産業における人材の確保・定着を危うくし、人材獲得競争へとつながる待ったなしの課題となっている。これらの課題に対しては、労働組合として、働くものの視点から本質をとらえ、あらゆる手段を行使し解決に向けて取り組んで行かなければならない。

基幹労連は、65 歳現役社会の実現を掲げ取り組みをすすめてきたが、2021 年 4 月以降、65 歳定年制を導入した労働組合も増えている。この 65 歳定年制は、年金受給開始年齢の引き上げへの対処だけではなく、入社から 65 歳までの一貫した定年制度の構築であり、技術・技能の伝承と優秀な人材の確保に加え、女性や高齢者の活躍が企業運営を大きく変えるという視点を含めた取り組みでもあった。これは、ダイバーシティーの発想に通じるものであり、女性はもとより、性別に関りなく、高齢者、障がい者、一人親家庭、介護者など誰もが安心して働くことで、その能力を発揮し暮らし続けられる社会をめざし更なる取り組みを進めていく。

最後に、基幹労連・連合の政策の実現に向けては、働く者・生活者の幸せ追求の手綱を緩めることがない緊張感をもった二大政党的政治体制が必要である。切磋琢磨できる政治があってこそ、国家の発展と働く者・生活者の安心・安定を築くことができる。私たちが支持する立憲民主党、国民民主党の今後の動向に期待し、加盟組合との連携のもと整斉と対応していきたい。

そして、2025 年 7 月施行予定の第 27 回参議院議員選挙において、JAM出身・基幹労連代表の「郡山りょう」氏の必勝に向けた戦いがはじまる。私たちの組織内議員・村田きょうこ参議院議員と、力を合わし働く者・生活者の声を代弁する議員を一人でも多くつくりあげていこう。

清末ひろよし議員市議会報告



去る９月 13 日、和歌山労組の組織内議員である清末ひろよし和歌山市議会議員が議会の場において私たちの生活のライフラインである水道行政について一般質問をおこないました。

当日行われた行政とのやりとりを下記に記載します。

一般質問

Q 水道管の老朽化を示す指標として、経年化率があげられる。これは管路全長に対し、法定耐用年数 40 年を経過した管路がどれくらいあるかが老朽度合いを示す指標となっている。一方、使用実績から 60・70 年使用できるものもあり、それ以上使用できる管も出てきている中、法定耐用年数 40 年を基に算出された経年化率は、老朽化の現状を正確に把握できているとは言い難い。そこで、経年化の考え方を含め今後どのように更新計画を立てていくのか。また、工業用水道の水道管においては、上水道の水道管よりも経年化率が高い状況にあるにも関わらず、更新が進んでいないが、どのように更新計画を立てていくのか和歌山市の考えを聞きたい。

A まずは、40 年というのは法定耐用年数ではなく減価償却の年数である。これをふまえ更新計画については、これまでの使用実績や厚生労働省が紹介している実使用年数に基づく更新基準、他都市の更新基準を参考に管種毎に基準設定したうえで更新計画の策定に取り組んでいく。工業用の水道管については、問題のある個所を中心に、計画的に更新を行ってきた。また、全体的な更新計画については、今後の水需要を見極めながら、上水道と同様の考え方のもと適切な管口径での更新計画を策定していく。

Q 水道管の寿命が延びているとはいえ、経営戦略で示されている更新率 0.5%では、水道管の耐用年数を迎えるまでに更新できず、老朽化した水道管が増え続け、いずれ漏水・断水といった問題を生じることになる。将来にわたり安心安全な水を供給し続けていくためには、更新率を引き上げるべきだと思うが、どのように考えているのか。



A 現在、浄水場の更新や送水管（水管橋）の複線化について優先的に取り組んでおり、水道施設全体の在り方については、再検討を行っている。水道管の更新については、ペースアップの必要性については認識しており、水道施設全体でみながら、財政面も踏まえ総合的に判断していく。また、今後の水道施設全体の在り方については、現在作成中の新水道事業ビジョンでお示ししていく。

基幹労連政策推進ニュース

渡辺復興大臣に政策要請を行う!

2023 年 9 月 4 日(月)、基幹労連の政策の推進を図るべく、「2024―2025 年度 基幹労連の政策」に基づき西村環境大臣への要請行動を実施しました。



左から津村中央執行委員長、大島国政フォーラム共同代表、神田前中央執行委員長、西村環境大臣、西岡国政フォーラム共同代表、村田国政フォーラム幹事長

大臣要請のポイント

網掛がキーワード

資源・エネルギーの安定確保と、国益・競争力確保を念頭に置いた環境保全・地球温暖化対策の実施

●カーボンニュートラル実現の取り組みにおいて、カーボンプライシングの導入にあたっては、急激に脱炭素に移行できない業種にとって不利益とならない制度構築とする。

●産業構造の転換で影響を受ける中小・中堅企業に対する支援を行い、雇用機会の拡大を図る。

●各種リサイクル法の整備・見直しと十分な量の廃棄物を低コストで収集できる仕組みづくりや都市鉱山など再資源化を国の主導で推進。

●環境対策技術の国内普及および二国間クレジット制度を通じたトップセールスを強力に推進。

西村環境大臣答弁

環境を守ることは、日本のみならず世界の将来にとって必要なことであるが、人々の命と暮らしを守る経済も大事である。「環境」と「経済」が両輪となり、Win-Win の関係としていくことが重要である。

カーボンプライシングについては、賦課金というプレッシャーをかけながら脱炭素社会への移行を図っていくという論理であるが、CO_2 を排出しない技術が確立されていない製鉄業に対してカーボンプライシングを課してしまえば、日本を牽引する製鉄業が衰退し、日本経済全体

も大きなダメージを受けることになる。

そこで、国として将来的な脱炭素社会への移行を掲げたうえで、企業の脱炭素の技術開発を支援していく方針を打ち出している。実際に20兆円のＧＸ経済移行債や、脱炭素化支援機構による支援体制を整備したところである。

都市鉱山の再資源化については、外国では取り組みが進んでいないところもある。日本の技術を有効活用し、リユース・リサイクルの取り組みを進めていきたい。

二国間クレジット制度については、現在27カ国で、日本の技術によって廃棄熱を電力に変換するなどの取り組みが進められている。国内だけでなく国外においても日本の技術が活用されることで、日本の産業・企業の発展に加えて、発展途上国でのCO_2の排出削減にも寄与しており、取り組みをさらに進めていきたい。また、COP27では、パリ協定６条実施パートナーシップを日本主導で立ち上げ、今では69カ国が参加している。地球温暖化の防止に向けては、一部の国だけでなく、世界全体で環境問題に取り組んでいくことが重要である。

これらの取り組みによって、我々としても、環境と経済の両輪をしっかり回していきたいと考えている。

日本製鉄和歌山労働組合「第11回定期大会」開催のお知らせ

開催期間：10月13日(金) 16：00～
場　　所：組合会館２階　大会議室
議案内容：＜報告事項＞
　　一般経過報告
　　2023年度決算並びに会計監査報告
　　組合規程の一部改正
＜特別報告＞
　　第27回参議院選挙対策について
＜審議事項＞
　　第１号議案　第54期運動方針に関する件（案）
　　第２号議案　2024年度会計予算に関する件（案）

日本製鉄和歌山労働組合第11回定期大会の開催に伴い、下記の通り大会関係者以外の組合会館前の駐車場を駐車禁止とします。ご理解とご協力をお願いします。

【日　　時】：10月12日(木) 17：00～
【対象場所】：組合会館前駐車場（全面）

９月の中央委員会は28日を予定しています。
内容については組合HPをご確認ください。

ありがとう 25th Anniversary

会員組合員用

はたらくあなたへ 笑顔を届けに

近畿ろうきん

自由に使えるローンなら

ろうきん 無担保 ローン

ライフエール

使いやすいローンを安心金利で。



家電・パソコンなどの買替えや、
日々の生活費、結婚費用など自由に使える!

どんなローンなの!? 動画掲載ページをチェック!!

※動画再生時には音が流れますので音量にご注意ください。

お借入金額300万円までなら

資金使途証明書類は

不要!

※他金融機関からの借換えの場合を除く

■ご融資限度額
最高 **1,000万円**
※所属組合・雇用形態等によって異なる場合があります。

■ご返済期間　10年以内

■ご融資金利
固定金利 年 **2.7%** 保証料込

レインボークラブ会員ならご融資金利より
年0.1%引下げ
※レインボークラブ会員の金利引下げについては営業店またはホームページでご確認ください。

※事業資金、投機・投資目的資金、負債整理資金は除きます。
※金利は毎月見直します。ご融資金利はご融資日時点の金利が適用されます。
※記載内容は2023年4月1日現在のものです。



生活応援キャンペーン

えがおのわ

実施期間
2023年4月1日～2023年9月30日



毎月抽選

A賞 毎月25名 合計150名
カタログギフトカードタイプ
プレゼンテージ シンフォニー

B賞 毎月(各50名) 250名 合計1,500名(各300名)
ギフト券 5種類のギフト券のうちいずれか

- 全国共通おこめ券 440円分×2枚
- 全国百貨店共通商品券 1,000円分
- ジェフグルメカード 500円分×2枚
- 図書カードNEXT 1,000円分
- JCBギフトカード 1,000円分

対象条件や賞品等の詳細はこちらをチェック!

対象条件　ライフエールを実施期間中にご契約いただいた方
(ご契約月の月末時点で継続してご契約いただいている方)

- 本キャンペーンは応募不要です。
- 同月内で複数の契約をいただいている場合でも、お一人さま一口として抽選をいたします。
- 本キャンペーンについて、ご不明な点がございましたら営業店までお問合せください。